

事業所名	有限会社TSUBASA 放課後等デイサービス 大洋		公表日		令和8年 3月 31日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9		設備基準は満たされているが、スペース自体は広くない為、利用人数によっては、屋内と屋外に別れて活動している。週1～2回は体育館を利用。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9		配置基準は満たされている。	より手厚く支援が行えるよう、配置基準以上の職員を配置するよう努めていく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9		こども達が不安にならないよう、視覚的・物理的構造化を行っている。	玄関や建物内には階段（手すり有）や段差がある。今後のニーズによっては、改善等を行っていきたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9		毎日清掃や消毒（2～3回）を行っている。冬も換気を行い感染予防に努めている。エアドックを導入。	今後も感染症が流行っている時期には、施設内や送迎車内の消毒回数を増やし、感染対策をしていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9		1つ以上空いている部屋があり、クールダウンできる環境を確保している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	9		土曜日以外は毎朝打ち合わせを行い、振り返り等を行っている。支援についてや業務改善が必要な部分等を共有し、話し合いをしている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	1	評価表をスタッフ間で情報共有している。評価されていない部分は改善していけるよう話し合い、評価されている内容は自信に繋げている。	パート職員は、ミーティングシートでの共有になっているので、意見を聞く機会をつくっていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		日々のミーティングで情報共有したり、話し合う機会を設け、業務改善に努めている。	パート職員は、ミーティングシートでの共有になっている。個別に意見を聞く機会を増やしていきたい。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		9		第三者評価機関は、設置していない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9		毎週、職員の支援の質の向上の時間を設け各自で学んでいる。今年度からパート職員も研修できるようなラーニングの研修を導入。職員の支援の統一ができるよう努めている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9		毎月、支援プログラムを作成し、保護者の方へ配布したり、成長療育支援システム『HUG』にも掲載している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9		モニタリング会議にて、児童本人・保護者ニーズを共有したり、課題等から計画を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9		社員全員で会議を行い、より良いサポートができるよう話し合いをしている。パート職員は会議には参加していないが、個別に話を聞く機会を設けている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9		個別支援計画は職員全員に共有している。ミーティングでも目標について話し、達成できるようサポートしている。	パート職員は、個別支援計画を目にする機会が社員より少ない為、支援に関わる職員には共有し、統一した支援ができるよう努めていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9		成長療育支援システム『HUG』を活用し、日々の記録や学校での引継ぎ等を記録している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9		ガイドラインに沿った目標を設定し、未達成の場合は次回も継続して支援を行う。支援内容は抽象的ではなく具体的に設定するよう努めている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9		担当職員を中心に活動プログラムを考え、内容は、日々でミーティングでも話し合い決定している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		その日の利用人数や天気により活動内容を変更する場合もある為、活動名は同じだが、内容は固定化せず児童が楽しめるよう工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9		3～6名の小集団から10名以上の集団活動、個別やペアでの活動等も組み合わせ支援を行い、ルールを守って参加できるようサポートしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9		学校の休業日等でミーティングが行えない日も、必ず打ち合わせを行っている。職員全体が共有できるよう、その日のスケジュール等を可視化し、パート職員にもわかりやすいよう共有している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9		支援終了後にも情報共有する場合もあるが、社員全員での打ち合わせはできない為、翌日の午前中に振り返りを行い、支援に繋げている。	パート職員には、その日のミーティングシートで共有している。特記事項等は社員から共有できるよう努めていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		毎日、成長療育支援システム『HUG』に児童の様子等を記録。日々のミーティングで話し合った内容も記録し、改善に繋げている。	
	23	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		モニタリング時期だけではなく、日々のミーティングで児童の様子や課題について話し合いをし、適切に見直すよう努めている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	9		毎月、「4つの基本活動」を盛り込んだ様々な活動を行っている。いつも遊んでいる公園や大洋周辺のゴミ拾いをしたり、近所の方と話しをしたりと地域との交流も行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定を育てるための支援を行っているか。	9		自己選択する事が苦手な児童には、いくつか選択肢を提案し、自己決定する力が養われるようサポートしている。	

関係機関 や保護者 との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		管理者兼 児童発達支援管理責任者が必ず出席している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9		学校・相談支援事業所とは、定期的に情報共有を行っている。関係機関との連携が必要な場合は、医療機関や障害福祉課等とも連携を行う。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9		年間行事・下校時間等は、時間割等で確認している。毎月、お便りや活動プログラムを配布。日々の引継ぎは送迎時に行ったり、必要な場合には電話連絡をしている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	3	新規利用の際には、連携を行っている。	現在、入所後の情報共有は行ってない為、必要に応じて連携を図っていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	1	8		現在まで該当する児童がないため情報共有は行ってないが、必要に応じて情報を提供する。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		9		地域の児童発達支援センターとは入所以降連携を図っていない為、助言をいただく機会はないが、スーパーバイザーが行っている研修は受講している。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		9	土曜日や長期休みの余暇活動時に、地域のイベントに参加し交流している。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		9		積極的に参加していない。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		成長療育支援システム『HUG』に、その日の写真や活動内容を掲載し、共有している。特記事項は、送迎時や電話・LINEでお伝えしたり、必要に応じて面談を行っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		9		現在、ペアレントトレーニングは行ってないが、職員はZOOMの研修等を受講している。今後、良い資料があれば共有していきたい。
保護者 への説明 等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9		新規契約時に、利用契約書及び重要事項説明書にて説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9		保護者・児童との面談時に、ニーズをお聞きしている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9		面談時に説明し、同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		子育て経験のある職員が保護者の方の悩み等を傾聴したり、アドバイスやサポートを行っている。必要に応じて面談もしている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		9		各会は設けてはいるが、必要性について考える。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9		苦情があった場合は、マニュアル通りに対応する。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	1	毎月、お便りを発行し、活動の様子や訓練の報告等をお伝えしている。成長療育支援システム『HUG』に毎月の活動プログラム掲載。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9		書類等は鍵付きの棚に保管。お便りや『HUG』用に撮影したデータは、スマホから削除している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		児童の特性に合わせた意思疎通を心掛け、本人が納得いくよう対応している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		9		町内会に参加している。地域清掃を行ったり、ご近所との関わりはあるが、行事に招待したことはない為、開かれた事業運営は行ってない。
非常時 等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9		各種マニュアルを策定し、訓練を行っている。今年度は、AEDを使った救急講習や送迎中の津波を想定した訓練も行った。次年度は、防犯訓練も検討中。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9		BCPを策定し、各委員会・研修・訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9		契約時の面談や児童調査票等で確認。服薬の種類や量が増えた場合は、児童調査票に記入していただいている。	予防接種の確認はしていない。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9			食物アレルギーの児童は在籍しているが、軽度のため医師の指示書はいただけていない。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9		安全計画を策定し、義務化された訓練・研修を行っている。児童と一緒に交通安全教室や防災センターへ行ったり、救急対応の研修も受講。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9			契約時にはお伝えしているが、その後は、お便りのみの報告となってしまった。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		ミーティングの際に、ヒヤリハットがなかったかを話し合ったり、月1回まとめて職員で共有している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		毎年、職員全員が虐待防止等の研修を受講。虐待防止チェックリストにて、振り返りを行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9		対象となる児童には、面談の際に説明を行い個別支援計画に記載している。	